

第70回企画展

# 木の加工と漆塗り



平成28年10月9日(日)~平成28年12月23日(金)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

岩手県では縄文時代の遺跡から、木を削ったり削ってたりして作られた木材加工品と、それらに漆塗りをしている加工品が出土しており、この時代から木材に漆を塗ったものづくりが始まっている。

岩手の漆器には、浄法寺塗、秀衡塗、正法寺椀などがあり、浄法寺塗は奈良時代に開かれた天台寺で自家用の什器として製作され、民間に伝えられて、浄法寺御器、御山御器と称されている。

岩手で作られる漆器の木地には、轆轤による挽き物と、指物技術による板物の二通りが見られます。浄法寺塗産地には、木地屋(師)の定着が基礎になっており、製品の原形を作って供給する集団と、漆原料を集める集団、それを精製して木地に塗り製品に仕上げる集団など、連携された工程で製品化されています。

企画展では、二戸地方で産する浄法寺塗をささえた、旧安代町の木地屋集落での木地づくりの工程を紹介しながら、先人の技を学ぶ機会とします。



手引き轆轤



精製へら、ぬり鉢

岩手県立農業ふれあい公園  
農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台